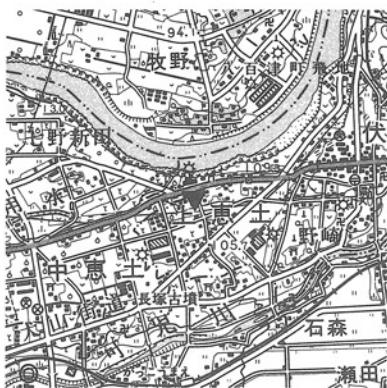


岐阜・浦畠遺跡

うらはた

- 所在地 岐阜県可児郡御嵩町上惠土浦畠
- 調査期間 二〇〇一年(平13)五月～二〇〇三年二月
- 発掘機関 財岐阜県文化財保護センター
- 調査担当者 鵜飼高男
- 遺跡の種類 集落跡
- 遺跡の年代 中世～近世
- 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(美濃加茂)

浦畠遺跡は、可児市市街地から北東約2km、木曽川と飛騨川の合流点から東約1kmの平地上に位置する。遺跡の南東には、一六世紀の城館、上惠土城跡がある。発掘調査は国道バイパス建設に伴うもので、調査の結果、中世から近世にかけての集落跡を確認した。検出した主な遺構は、掘立柱建物・土塁・井戸・溝・多数の土坑などである。

木簡は、調査区中央付近

の区画溝で囲まれた遺構群の中にある井戸E一〇九九から一点出土した。この井戸は、江戸時代後期から幕末のものである。木製品には、木簡の他に、曲物や手桶、建築部材がある。調査区全体から墨書き器も出土しており、中世のいわゆる山茶椀、近世の陶器にも見られる。このうち、瀬戸美濃連房(一九世紀)の瓶掛の底部の墨書き「濃州／長谷川氏／申年／極月／□□」は注目される。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「字浦畠四□」

195×26×0.5 065

何らかの木製品(報告書では建築部材とするが不詳)から剥いだ非常に薄い材に墨書きがある。二行目「四□」は、最後の文字と一文字で「□」となる可能性もある。

9 関係文献

(財)岐阜県教育文化財団文化財保護センター「上惠土城跡・浦畠遺跡」(二〇〇六年)

(近藤大典(岐阜県教育委員会))

